

## 最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

### 令和3年度3月号

#### ○ 概要

- (1) 令和3年度3月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は7,194億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+1.5%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は10,013円（伸び率+1.7%）であった。調剤医療費の内訳は、技術料が1,807億円（伸び率+1.2%）薬剤料が5,374億円（伸び率+1.5%）、薬剤料のうち、後発医薬品が1,084億円（伸び率▲4.1%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,829円（伸び率+1.6%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.70種類（伸び率▲0.6%）、28.9日（伸び率+3.3%）、75円（伸び率▲1.0%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料4,189億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+56億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の744億円（伸び幅+38億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+51億円（総額495億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	4,189億円 (+56億円)	39 その他の代謝性 医薬品(744億円)	21 循環器官用薬 (682億円)	11 中枢神経系用薬 (617億円)
0歳以上 5歳未満	18.8億円 (▲3.3億円)	44 アレルギー用薬 (8.3億円)	22 呼吸器官用薬 (2.3億円)	61 抗生物質製剤 (1.7億円)
5歳以上 15歳未満	99.7億円 (▲1.3億円)	44 アレルギー用薬 (46.4億円)	11 中枢神経系用薬 (27.7億円)	39 その他の代謝性 医薬品(5.9億円)
15歳以上 65歳未満	1,542億円 (+31億円)	11 中枢神経系用薬 (301億円)	39 その他の代謝性 医薬品(284億円)	21 循環器官用薬 (210億円)
65歳以上 75歳未満	974億円 (▲6億円)	39 その他の代謝性 医薬品(210億円)	21 循環器官用薬 (183億円)	42 腫瘍用薬 (155億円)
75歳以上	1,554億円 (+35億円)	21 循環器官用薬 (285億円)	39 その他の代謝性 医薬品(243億円)	11 中枢神経系用薬 (191億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では10,013円（伸び率+1.7%）で、最も高かったのは高知県（12,200円（伸び率+1.1%））、最も低かったのは佐賀県（8,308円（伸び率+2.5%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは徳島県（伸び率+5.9%）、最も低かったのは茨城県（伸び率▲0.2%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注）</sup>	82.1 %	▲0.0 %
薬剤料ベース	20.2 %	▲1.2 %
後発品調剤率	78.8 %	+1.2 %
（参考）数量ベース（旧指標）	59.1 %	+0.0 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲4.1 %	+3.3 % (50歳以上 55歳未満)	▲13.0 % (0歳以上 5歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.2 %	28.9 % (100歳以上)	14.1 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	82.1 %	86.8 % (100歳以上)	76.0 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	911 億円 (▲62 億円)	21 循環器官用薬 (256 億円)	11 中枢神経系用薬 (161 億円)	44 アレルギー用薬 (107 億円)
0歳以上 5歳未満	6.3 億円 (▲1.7 億円)	44 アレルギー用薬 (3.8 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.5 億円)	61 抗生物質製剤 (0.3 億円)
5歳以上 15歳未満	21.8 億円 (▲4.6 億円)	44 アレルギー用薬 (16.2 億円)	11 中枢神経系用薬 (2.0 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.5 億円)
15歳以上 65歳未満	324 億円 (▲14 億円)	21 循環器官用薬 (75 億円)	11 中枢神経系用薬 (68 億円)	44 アレルギー用薬 (61 億円)
65歳以上 75歳未満	209 億円 (▲19 億円)	21 循環器官用薬 (76 億円)	11 中枢神経系用薬 (26 億円)	23 消化器官用薬 (24 億円)
75歳以上	350 億円 (▲23 億円)	21 循環器官用薬 (105 億円)	11 中枢神経系用薬 (65 億円)	23 消化器官用薬 (49 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,509 円	1,952 円(北海道)	1,261 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲3.9%	▲1.2 % (宮崎県)	▲6.1 % (福井県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	82.1 %	89.2 % (沖縄県)	78.5 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.2 %	23.5 % (鹿児島県)	17.2 % (京都府)
後発医薬品調剤率	78.8 %	84.5 % (沖縄県)	74.4 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	59.1 %	66.6 % (沖縄県)	55.2 % (東京都)

## 〔利用上の留意点〕

### 分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和3年度3月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。